

# 公園マップ作成へ

## 「子どもに運動を」 みやき町と西九州短大 学生ら特徴紹介

### みやき町

西九州短大幼児保育学科の学生13人が、子育て支援に力を入れているみやき町と連携し、町内の公園マップ作りに取り組み。所在地や施設内の設備はもちろん、保育学・子ども学の視点でどのような遊びに適しているかも解説する。子育て世代に公園の利用を促すとともに、子どもの運動機会の増加に役立てる。

## 西九州大学 & みやき町 子育て連携事業



みやき町の公園マップ作りに取り組む西九州短大の学生たち

みやき町コミュニケーションセンター(すもす館)

卒業研究の一環で、西田明史准教授のゼミに所属する2年生が「みやき町子育て

て応援マップ(仮)」を作る。みやき町と西九州短大などを運営する学校法人「永原学園」は2月に連携協定を結び、連携事業の第1弾として取り組む。学生たちは町内約80カ所の公園から地域や種類などのバランスを考えて十数カ所を選定。公園名、位置、面積、設備、駐車場やトイレの有無、外観写真などの情報を集める。公園の機能や特徴をまとめ、子どもの発達に合わせて「かがむ」「立つ」「降りる」「またぐ」など、どのような運動ができるかを分かりやすく

アイコンで示す。調査は19日から計4回行い、来年1月下旬までにリリースに仕上げる。8日には学生と町の意見交換会があり、プロジェクトのリーダーを務める松田怜雅さん(20)は「肥満や運動能力の低下は現代の子どもの健康課題だが、保護者からは『公園に連れて行きたくても場所が分からない』という声も聞いた。公園選びに便利な情報をまとめ、興味を持ってもらいたい」と話した。末安伸之町長は「学生の視点で子育て支援に協力しても

らうことで、より魅力あるまちづくりができる」と期待を寄せていた。

(大橋諒)